

令和3年第14回(定例会)

厚真町教育委員会会議録

1 開会

令和3年11月26日(金)14時30分

2 開会

令和3年11月26日(金)16時20

3 出席委員の氏名

遠藤 秀明 池川 徹 長門 茂明 金光 えり 日西 大介

4 委員及び傍聴人以外の会議出席者氏名

生涯学習課長 加藤 克彦

生涯学習参事 宮下 桂

5 会議録署名委員の指名

(金光 えり)

(日西 大介)

6 教育長報告

(1) 行事参加等の動向 (資料1)

(2) 令和2年度決算審査特別委員会(11月10日) (資料2)

【質疑応答なし】

7 所管報告

学校教育グループ

(1) 厚真高校活性化促進事業視察／11月11～13日／新潟県立阿賀

黎明高等学校

(2) 11月の校長会議、教頭会議 (資料3)

社会教育グループ

(1) 就学時健康診断時「家庭教育セミナー」講師 桜井裕司 氏

① 11月1日(月) / 厚真中央小学校 / 保護者27人参加

② 11月2日(火) / 上厚真小学校 / 保護者10人参加

(2) 厚真町文化祭の開催 / 11月3日(水) ~ 4日(木)

① 総合福祉センター (266人来場)、厚南会館 (110人来場)

(3) 図書フェスティバルの開催 / 11月3日(水) / 78人来場

① 青少年センター

・ プラネタリウム投影 / 天体観望会

・ ちょっと怖いお宝さがし (小学生以上)

・ 電子図書体験 / 動画視聴 (厚真こどもひろばチャンネル)

・ 古雑誌リサイクル

② 絵本の読み聞かせ会 (「おはなしのびっ子」主催)

(4) 月食観察会開催 / 11月19日(金)

① 青少年センター屋上・天文台大型望遠鏡 (27人来場)

(5) 生涯学習講演会開催 / 11月25日(木)

① 厚真放課後子どもセンター

【質疑】

池川委員：例年に比べて文化祭の来場者数は多いのか？

宮下参事：例年に比べれば少ないが、コロナ禍においては想定以上の来場数であった。

8 協議事項

(1) 令和3年度全国学力学習状況調査結果の町民公表について

(資料4)

(2) 令和4年度当初予算の概要について

(資料5)

【質疑】

池川委員：小学校国語において読解力が極端に低いデータとなっているが要因は

金光委員：学力調査の問題は長文のためテスト時間内に読み込めるかという点で時間的なものも関係しているのではないか？長文問題については家庭での読書習慣とも関連がある。読書習慣がない児童にとって長文問題はかなり難易なものになる。中央小に限定した話だが数年前は朝読書の時間があった。家庭では読まなくても学校で読む習慣が少しはあったが、その時と比較すると今は学校でも読む時間は減少している。

宮下参事：金光委員のご意見との関連でいえば、児童質問紙「勉強以外に1日10分以上読書をしているか」の設問で、厚真町の小学生は全国比で10ポイント低い。約半数の子が読書以外に時間を費やしているという実態がデータからも見える。

池川委員：学校訪問の際も話題となったが「読書をしてほしい」というのが学校も地域も共通の思いである。早急に読書をさせるような環境づくりに取り組まなければならないのではないのか？

日西委員：例年このような傾向の結果が出ているのか？

宮下参事：学年によって、ばらつきはある。

遠藤教育長：40人前後の母数では、1人の得点が大きく結果に影響するので、集団の能力全体として見て取ることは難しい。あくまで材料の1つとしてみる必要がある。

池川委員：この学年は6年間あまり読書する機会がなかったという意味なのか？

金光委員：中央小学校について言えば、学校での読書活動に関しては他の学年と遜色ないと思われる。ただし、現中3や高校生の世代と比べると学校で読む時間も減っているし、図書室の利用も減少している。もちろん読書が好きな子もいるが、全く読まない子もいる。本町のデータは母数が少ないので平均値だけで判断することは難しい。

長門委員：朝読書の時間に他のことをするようになったことも読書時間の減少に影響しているものと推察される。

金光委員：指導要領も授業日数や時数は変わらないが、やらなければならないことは増えている。それが朝の時間や予備的な時間に影響しているのは現実である。

池川委員：読書の時間をとれるようにしなければ、数値は上がってこないのではないか？

金光委員：別の方法も考えられるが、学校教育で取り組める部分といえばそういった部分。

池川委員：調査結果について例年公表しているのであれば公表したほうが良いが、落ちている数値の改善策なども併せて出すべきではないか。

宮下参事：町の公表資料としては、あくまで町全体の全体論的な改善策の提示にならざるを得ない。各学校の学校だよりでは、各校長が各学校の実態や結果を踏まえたより具体的なメッセージを発信している。あくまで町民公表資料は町民に客観的データをお知らせするという意味合いで捉えていただきたい。

池川委員：中央地区と厚南地区では差があるのか？

宮下参事：細かい部分で差はあるが、傾向としては似ている。

遠藤教育長：読書推進とメディアの共存は数年前から課題として

取り上げてきたが、今後も強化していかなければならない。学校での取組も指導主事が調査データを踏まえた改善策を検討している。

池川委員：現在小学生、中学生はそれぞれ何人か？

宮下参事：小学生が234人、中学生は118人である。

金光委員：読む楽しさを知っている子は、良い本との出会いも経験している。読むのが好きではない子は、面白いと思える本に出会えていないという面もある。読む量が多いほど良い本に出会う機会も多いが、そのような意味で言えば学校だけではなく、地域や家庭向けに本を宣伝する機会があってもよい。

池川委員：どの本を選べばよいのか分からないといたことあるのではないか。

長門委員：読み慣れている子は、自分に合う本かどうかすぐに判断できる。

池川委員：学校よりは、青少年センター図書室の方が蔵書数が多いのだから、ここにきて本に触れるような機会も必要なのではないか。

遠藤教育長：大人が一方的にジャンルを決め付けるよりも、多くの情報に触れる機会を与えておくべきである。司書も色々工夫はしているが、図書室に足を向けないと気づくことはできない。

長門委員：今の子どもたちがどのようなことに興味を持っているのかリサーチするような時間は司書にはないのか。

遠藤教育長：学校側の協力がなければ司書単独でリサーチすることは難しいだろう。

長門委員：リサーチしたものが反映できるかは別として、傾向だけでも分かれば対策も考えられるのではないか。

遠藤 教育長：学校図書の出貸リストで、ある程度の傾向をつかめる可能性はある。

池川 委員：各学校の図書担当者と協議の場を設け課題を共有することも必要ではないか？

長門 委員：今後子どもが読みたい本などの情報を引き出せばよい。リサーチせずに選書しても子ども達の趣向の実態と合っていない可能性もある。タブレットなどを活用すればデータベースとしても利用できる。本屋に行くよりもアマゾンで購入した方が早いですが、同じようなことを厚真でもできれば良いと思う。

池川 委員：学校の授業で町の図書室にきて、使い方を教えたりはしているのか？

宮下 参事：毎年特定の学年を対象に行われている。図書室に足を向けてもらう工夫は引き続き必要である。一方、本を好きになってもらう観点から、現状や課題を現場の教員や町図書室担当、保護者等と共有し、読書環境を再構築していかないと根本的な改善につながらない。子どもたちの身の回りに興味を引く本があって、手に取りやすくなっている環境も必要である。全国平均との比較という数値だけ見てしまうと子ども達が本を読んでいないようにみえるかもしれないが、読んでいる子はよく読んでいる。本を好きな子の割合を一人でも多くしていくための策が必要である。こども園では子どもの身近な生活空間に本がある環境ができ始めている、小学校でも担任によっては、絵本を教室にディスプレイしたり休み時間に面白い本を紹介したり読み聞かせしたりする先生もいる。そのような取組を広げていくことも大切である。

池川委員：すべてを学校に任せるわけにはいかない。家庭にも基本的な役割があるはずである。

遠藤教育長：読書に関してはそうかもしれない。小学校に上がると様々なことに興味がでてくるので、幼少期から興味を抱かせることも重要であると考えます。

池川委員：自分の子育てでも読み聞かせはしてきたが、2人の子のうち1人は全く読まないし、1人は今でもよく読書する。大人の働きかけが必ずしも期待通りの成果につながるとは限らない面はある。

遠藤教育長：読み聞かせをしなければ、2人とも読書をしなかった可能性もある。少しでも可能性のあることをブックスタートなど町の事業等をきっかけに家庭でも活用してもらいたい。

宮下参事：本に触れたり、読んだりする環境が快適であれば、本を手に取りやすくなるという可能性はある。その意味で図書室や学校図書館の環境改善の余地はある。将来的にはそのようなことも検討していきたい。

池川委員：新規事業である地域スポーツ活動振興事業について詳細を確認したい。

宮下参事：地域おこし協力隊2名の配置に係る予算である。

池川委員：2名の具体的な役割は。

宮下参事：基本的には部活動の地域移行が先行している陸上競技に関して専門性の高い人材を協力隊として委嘱し、まずは部活動の指導を担ってもらいたい。あわせて、町のスポーツ振興事業の手伝いをしてもらいながら将来的には一部スポーツ施設の管理やスポーツ振興事業の担い手として育成していくことを想定している。

池川委員：新年度予算は新年度にならないと募集をかけること

はできないのか。

宮 下 参 事：そのとおりである。

金 光 委 員：現在厚真中学校に陸上部はあるのか？

宮 下 参 事：厚真中には陸上部はない。

池 川 委 員：当面は陸上競技を先行させるという方針か？

宮 下 参 事：陸上競技でモデルが出来れば、他の部活にも活用できると考えており、段階的に増やしていきたい。

金 光 委 員：厚南中学校には陸上部があり有力な選手もいて育成していきたいという考えもわかる。他方、なぜ陸上競技ばかりという意見は出てこないか？

池 川 委 員：有力な選手が継続して育っていくのであれば、大きな予算をかけて公認競技場を整備しても無駄にはならないと思うが、現実論として継続的な成果が見込めるのか？慎重な検討も必要ではないか。

宮 下 参 事：人口減少社会において、厚真町のような小さな町が多くのスポーツ競技に門戸を開き、どれもこれも振興していくというのは現実的ではない。長期的には町の強みを活かしながら、一定のスポーツに絞って振興を図っていくという戦略が重要である。その意味で、陸上競技は他の地域と比較しても指導体制や選手層という面で優位性があり、継続的に発展していく可能性がある。陸上競技に限らず、優位性や地域特性を活かすという観点で可能性の高い競技についても今後は重点的に伸ばしていくことを考えていくべき。

池 川 委 員：公認競技場は厚真中のグラウンドに整備されることになっている。現在も厚南中から中央地区での活動に部員が移動する際は往路だけスクールバスを利用

できるという話だったが、厚真中にしか新たな拠点を整備できないのであれば、復路もバスを利用できるようにすべきではないか？両地区共に同じ条件下で部活動に参加できるようにするために送迎の配慮が必要ではないか？行きたくても行けない子が出てくるように思う。参加できる環境づくりは大切である。

宮 下 参 事：今後部活動は、地域移行が段階的に進んでいくことになる。これまで以上に一方の地域にしか拠点が無い種目が生じてくることが予想される。一方の地域にしか拠点が無いという状況の中、児童生徒にどのように平等に参加機会を保障していくかについては、課題である。一方、これまでもそのような条件下で既に活動してきている種目もある中で、新たな取組によって逆に不公平感が生じないように、丁寧な説明と対応が必要と考える。

池 川 委 員：事前に課題が明らかなのであれば予算の追加を検討すべきではないか？

加 藤 課 長：委員から提案を受けたということで町長ヒアリング時に協議したい。

遠 藤 教 育 長：下校バスの運行やバス担当職員の勤務の絡みもあるので、スクールバスの有効活用という視点だけでなく地域の公共交通との連携も可能性を探る必要がある。現在は早朝や夜間に該当する公共交通がないので、均等に利用できる機会を増やすという意味も含めて検討していきたい。

金 光 委 員：アレルギー調理室を増築できれば、現在お弁当対応のお子さんは、完全代替食の提供が可能となるの

か？

宮下参事：専用調理室ができたとしても、必ずしも代替食対応が100%提供できるようになるとは言えない。これまで以上に対応できる可能性は高まるが、その子のアレルギー症状によって100%ではない点はご理解いただきたい。

遠藤教育長：アレルギーの種類によっては対応できるものと出来ないものがあるが、これまで以上に丁寧な対応は可能となる。少しでも個々に寄り添った給食を提供できるような姿勢は変えずにしていきたい。

長門委員：スポーツ振興事業にしてもアレルギー調理室の件にいても、ハードとソフトのバランスが大事。現段階で見えている課題があるのであれば今のうちから少しでも取り組むべきである。

日西委員：保護者目線で考えると、やはり部活の送迎は大きな関心事である。

池川委員：地域から反対意見が出る前に構想段階で対応できる課題については検討していくべきである。せっかくグラウンドを整備しても有効に利用してもらえない方法がセットでなければ予算をかけて整備する意義は薄れる。既存団体の利用とは別に、基礎体力をつけるような意味合いで、小学生にも活用してもらおうなしかけも必要ではないか。

宮下参事：地域おこし協力隊の役割としてはスローイングチームの指導だけではなく、体力向上の側面から小学校の体育授業等での関わりも視野に入れている。

遠藤教育長：各委員からいただいたスポーツ振興事業運用に関する意見を検討して町長査定に臨みたい。

9 その他

- (1) 成人式の開催（予定）／令和4年1月9日（日）午前11時から
／対象者31人

10 次回委員会の開催日程

- ・定例委員会 12月28日（火） 午後2時30分（予定）

11 閉会